

- 当社は、2025年度第6回のALPS処理水海洋放出を、12月4日午前11時15分から実施しています。
- 放出期間中は、ALPS処理水（トリチウム）の希釈が適切に行われているか毎日確認することを目的に、海水で希釈後の水のトリチウム濃度を分析し、トリチウム濃度が計算上の濃度と同程度であることおよび1,500ベクレル/リットル未満であることを確認しています。
- 発電所から3km以内の10地点および発電所正面の10km四方内の4地点においては、海水のトリチウム濃度の分析結果を迅速に得ることを目的に、検出限界値を10ベクレル/リットル程度に上げた分析を実施し、トリチウム濃度が放出停止判断レベル（700ベクレル/リットル^{※1}または30ベクレル/リットル^{※2}）および調査レベル（350ベクレル/リットル^{※1}または20ベクレル/リットル^{※2}）以下であることを確認しています。

※1 発電所から3km以内の10地点 ※2 発電所正面の10km四方内の4地点

<12月21日までにお知らせ済み>

- 2025年度第6回のALPS処理水海洋放出期間中、12月8日に「津波注意報」が発表されたことから、自然現象に対する安全確保のため、あらかじめ定めた手順に則り、計画的にALPS処理水希釈放出設備を手動停止しました。
- その後、12月9日の「後発地震注意情報」の発表を受け、避難経路の確認や連絡手段の徹底等を講じた上で、放出に向けた準備を進め、海洋放出を再開しています。
- 測定・確認用設備A群からのALPS処理水の移送が、12月22日午前5時15分に終了し、ALPS処理水移送ラインの配管内に残っている水（ALPS処理水）の、ろ過水による押し流しが、12月22日午前11時59分に終了したことをもって、2025年度第6回のALPS処理水海洋放出が完了しました（総放出水量：7,833m³、トリチウム総量：約2.4兆ベクレル）。
- 引き続き、ALPS処理水の安全な海洋放出を安定的に実施できるよう、緊張感を持って取り組んでまいります。

[参考] 2025年度ALPS処理水放出計画 (1/2)



- 2025年度の放出計画は以下の通り、年間放出回数7回、1回当たりの放出水量約7,800m³、年間放出水量約54,600m³、年間放出トリチウム量約15兆ベクレルを計画。

管理番号※1	移送元タンク※2	移送量※3	放出開始時期
25-1-12	G4南エリアB群 (測定・確認用設備 A群に移送) K3エリアA/B群 ※5(測定・確認用設備 A群に移送)	: 約8,080m ³ : 約910m ³	※4 二次処理 : 無 告示濃度比総和 : 0.45~0.55※6 トリチウム濃度 : 22万~37万ベクレル/リッル ※7 トリチウム総量 : 2.8兆ベクレル
25-2-13	K3エリアA/B群 ※5(測定・確認用設備 C群に移送) J1エリアE群 (測定・確認用設備 C群に移送)	: 約6,970m ³ : 約820m ³	二次処理 : 無 告示濃度比総和 : 0.45~0.62※6 トリチウム濃度 : 22万~38万ベクレル/リッル ※7 トリチウム総量 : 1.9兆ベクレル
25-3-14	J1エリアE群 (測定・確認用設備 A群に移送) G5エリアE群 (測定・確認用設備 A群に移送)	: 約7,300m ³ : 約480m ³	二次処理 : 無 告示濃度比総和 : 0.47~0.62※6 トリチウム濃度 : 20万~38万ベクレル/リッル ※7 トリチウム総量 : 2.9兆ベクレル
25-4-15	G5エリアE/C/B群 (測定・確認用設備 B群に移送)	: 約8,970m ³	※4 二次処理 : 無 告示濃度比総和 : 0.47~0.62※6 トリチウム濃度 : 20万~22万ベクレル/リッル ※7 トリチウム総量 : 1.6兆ベクレル

次スライドへ

※1 管理番号は年度-年度毎の放出回数-通算放出回数の順で数を並べたもの。「25-1-12」は25年度第1回放出かつ通算第12回放出を表す。

※2 移送量（実績値）の増減により、移送元タンクの移送順序は変わらないが、放出回は前倒しもしくは後ろ倒となる可能性あり。

※3 下線部は実績値を示す。

※4 受入先の測定・確認用タンクA・B群はタンク点検後で残水が無い状態のため、移送量としては合計約9,000m³となる（放出水量は約7,800m³）。

※5 K3エリアA/B群は、2023年度および2024年度に移送・放出により空になったところへ再度ALPS処理水の受け入れを実施。

※6 ALPSで処理し、タンク貯留後に測定した、主要7核種 (Cs-134,Cs-137,Sr-90,I-129,Co-60,Sb-125,Ru-106) の分析値から算出した告示濃度比にC-14の最大値 (0.11) およびその他核種の合計を0.3と推定したものを加えた、保守的な値。

※7 タンク群平均、2025年4月1日時点までの減衰を考慮した評価値。

[参考] 2025年度ALPS処理水放出計画 (2/2)



管理番号※1	移送元タンク※2	前スライドより		放出開始時期
		移送量※3		
25-5-16	G5エリアB/A群 (測定・確認用設備 C群に移送)	: 約7,780m ³	二次処理 : 無 告示濃度比総和 : 0.47~0.59※4 トリチウム濃度 : 22万~26万ベクレル/ドロップ※5 トリチウム総量 : 1.9兆ベクレル	10~11月
25-6-17	G5エリアA/D群 (測定・確認用設備 A群に移送) G4北エリアA群 (測定・確認用設備 A群に移送)	: 約4,050m ³ : 約3,710m ³	二次処理 : 無 告示濃度比総和 : 0.46~0.76※4 トリチウム濃度 : 26万~30万ベクレル/ドロップ※5 トリチウム総量 : 2.2兆ベクレル	11~12月
点検停止（測定・確認用設備 C群タンクの本格点検含む）				
25-7-18	G4北エリアB群 (測定・確認用設備 B群に移送) H2エリアJ群 (測定・確認用設備 B群に移送)	: 約3,760m ³ : 約4,040m ³	二次処理 : 無 告示濃度比総和 : 0.58~0.78※4 トリチウム濃度 : 26万~27万ベクレル/ドロップ※5 トリチウム総量 : 2.0兆ベクレル	3月
<p>→ 2025年度放出トリチウム総量 : 約 <u>15兆</u>ベクレル</p>				

※1 管理番号は年度-年度毎の放出回数-通算放出回数の順で数を並べたもの。「25-1-12」は25年度第1回放出かつ通算第12回放出を表す。

※2 移送量（実績値）の増減により、移送元タンクの移送順序は変わらないが、放出回は前倒しもしくは後ろ倒となる可能性あり。

※3 下線部は実績値を示す。

※4 ALPSで処理し、タンク貯留後に測定した、主要7核種 (Cs-134,Cs-137,Sr-90,I-129,Co-60,Sb-125,Ru-106) の分析値から算出した告示濃度比にC-14の最大値 (0.11) およびその他核種の合計を0.3と推定したものを加えた、保守的な値。

※5 タンク群平均、2025年4月1日時点までの減衰を考慮した評価値。

[参考] 迅速に結果を得る測定のモニタリング計画

TEPCO

- 当社は、2023年8月の放出開始以降、下図に示す社内の14地点で、迅速に海水中のトリチウム濃度を確認するためのモニタリング（検出限界値10ベクレル/ドル程度）を実施しています。なお、「放出停止判断レベル（図中記載）」を超えた場合には、海洋への放出を停止します。

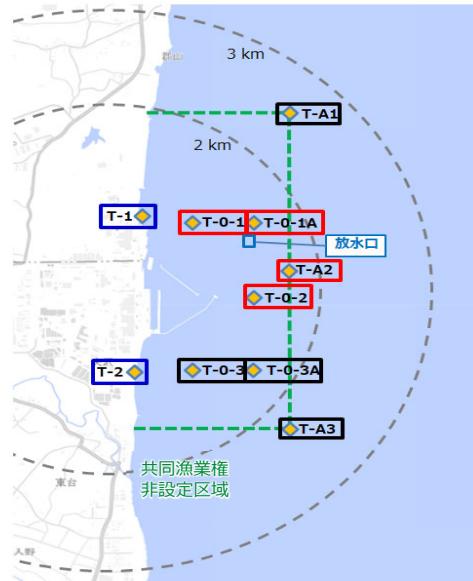


図1 試料採取地点 発電所から3km以内（放水口付近）

□：迅速に結果を得るモニタリング対象地点（10地点）

指標（放出停止判断レベル） 700ベクレル/ドル

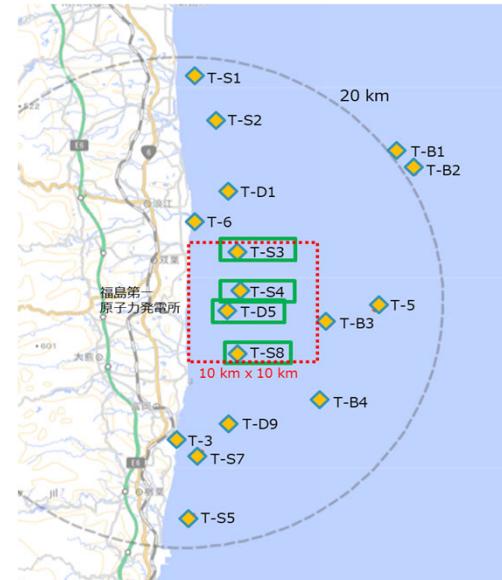


図2 試料採取地点 発電所正面の10km四方内

□：迅速に結果を得るモニタリング対象地点（4地点）

指標（放出停止判断レベル） 30ベクレル/ドル

	【図1】発電所から3km以内（放水口付近）		【図2】発電所正面の10km四方内 4地点 □
	放水口周辺4地点 □	その他6地点 □ □	
放出期間中および 放出終了日から1週間	毎日※1	週2回※2	T-D5:週1回 T-S3,T-S4,T-S8 : 月1回
放出停止期間中 (放出終了日から1週間を除く)	週1回※2	月1回※2	

※1 放出期間中に荒天のため連続して2日間欠測し、翌日（3日目）も欠測が予測される場合には、3日目はT-1、T-2の迅速に結果を得る測定を行う

※2 2023年8月の放出開始以降、毎日モニタリングを実施してきたが、放出中の実績等を踏まえ、2023年12月26日からモニタリング計画を変更した
（2023年12月25日公表）